

【9 吉野ヶ里町 Yoshinogari Town】



吉野ヶ里歴史公園から

吉野ヶ里町では、空気のよく澄んだ日には、町の南西部の吉野ヶ里歴史公園(吉野ヶ里遺跡)、中部にある東脊振(せふり)温泉や権現山・粃(もみ)岳、北部にそびえる千石山や蛤岳などから、佐賀平野・有明海越しに“北面の雲仙岳”が眺望できます。

隣の神崎市との間にひろがる吉野ヶ里遺跡(国指定の特別史跡)は、弥生時代の約 700 年間(紀元前5世紀～紀元3世紀)の歴史が見られる国内最大級の遺跡で、特に紀元1～3世紀に発達した大規模な環壕集落が有名です。現在、環壕集落の建物の復元が行われているところですが、実は建物配置に中心線があることが発見され、その中心線は、主要な建物群(北墳丘墓～北内郭主祭殿～祭壇)を通過して約 60km 先の雲仙岳に向かっているのです。これは、約 2000 年前の集落の人々が、雲仙岳を眺めながら建物をどこに配置するか決めていったことを示唆しており、有明海の奥にそびえる雲仙岳は古代からランドマーク(目印)として機能していたと言えます(↑↓)。

権現山の南麓側の一角(粃岳)には、“トム・ソーヤの森”が整備され、アスレチックや野鳥観察、昆虫採集、千本桜鑑賞などが楽しめますが、森の一角に粃岳展望台(旧東脊振村の村制 100 周年記念塔)があり、ここからは佐賀平野越しに雲仙岳が眺望できます。

サザンカの自生北限地帯(国指定の天然記念物)が広がる千石山には、山の一角を通る国道沿いに道の駅吉野ヶ里(さざんか千坊館)があり、この展望所からは佐賀平野～有明海～雲仙岳のパノラマが楽しめます。付近には、日本茶栽培発祥の地とされる霊仙寺趾があり、雲仙岳と同様に古い歴史を有する脊振山系の山岳信仰や大陸文化の伝来に思いを馳せることができます。

脊振北山県立自然公園に指定されている蛤岳は、山頂からの展望が良好で、佐賀平野・有明海越しの雲仙岳が望めます。この蛤岳や道の駅吉野ヶ里の展望所、粃岳展望所からは、阿蘇山も眺望できる日があり、阿蘇山と雲仙岳の間の歴史的な大三角形(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることも可能です。これら脊振山系から流れ出して町内を潤す田手川の水は、町の南西部で神崎市内に入って筑後川に合流し、有明海に流れ込みますが、全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を筑後川が日々流し込んでいるので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、吉野ヶ里町内を旅してみませんか？

●吉野ヶ里町の観光情報はこちら↓

吉野ヶ里町商工観光課 http://www.town.yoshinogari.saga.jp/contents/1_10016.html



吉野ヶ里歴史公園から

